

第361号 平成29年11月

東京都農業会議情報

編集及び発行 東京都農業会議

渋谷区代々木2-10-12
TEL 03-3370-7146

改正生産緑地法の施行を受付

都内各農委会では対応が進められる

本年6月15日に改正生産緑地法が施行されたことを受け、都内の農業委員会等では条例改正などの対応が進められています。

都内6区市（世田谷区、練馬区、足立区、目黒区、日野市、武蔵村山市）では9月、10月の本年第3回区市議会において、生産緑地の下限面積を300㎡に引き下げる条例改正が行われました。

平成30年度の事業・予算の構想などを協議

第2回事業推進協議会開く

都農業会議は、11月16日に農業委員長・区市町村主管課長および学識経験者・農業団体会員83人の出席を得て、第2回事業推進協議会を開きました。

協議では、平成30年度農業会議事業・予算の構想等について説明しました。

また、稲城市篠崎道明事務局長、清瀬市松村俊夫会長より、農地パトロールの状況が報告されました。



さらに、日野市と武蔵村山市では10月に改正された条例の下で生産緑地の追加指定の申込を受け付け、市内の農業者からの申込がありました。

また、これらの一部の区市では、これまで追加指定の対象外としていた①農地

仙台市の農表委員会活動などを研究

都内の農委会長と仙台市農委会長研究集会

農業委員会会長研究集会

都農業会議は10月26日、27日に、農業委員会会長研究集会を仙台市にて開き、約60人が参加しました。

1日目は、最初に仙台市農業園芸センターにて、仙台市の農地流動化に関する施策や農業サポーター制度など仙台市の農業施策について研究しました。

その後、(株)みちさき(菊地守代表取締役)の大規模施設での野菜生産、農事組合法人井土生産組合の組合結成の経緯や農業生産の概要、出荷形態などについて話を聞きながら現地研究をしました。

2日目は、仙台市農業委員会(佐々木均会長)の活動について説明を受けた後、都内の農業委員会長とで、お互いの活動などについて活発に意見を交換しました。



震災後に設立された農事組合法人井土生産組合にて経営の取組を聞く

あぜみち

今秋は「心が洗われる」機会に恵まれた◆大津波により全てを失った仙台市の農業者は、溢れる郷土愛・農業愛を持つ15人の仲間(農)井土生産組合を設立。復興中のほ場70haでコメ・ネギ・トマトなどを生産している◆東京では消費者に囲まれ地元産の食材にこだわる飲食店や学校給食、量販店などに販路を拡大し、限られた畑の中で最大限の作付けする企業的農業経営がある◆先代、先々代いやそのずっと以前から培われた土と経営を引き継ぎ、自分流の農業感で次の一手を講じている農業後継者がいる◆商品を生産するプロフェッショナルな農業者のこだわりや養われた知識や経験、流した汗の多さ◆農業という職業の奥の深さや達成感、やりがいと同時に筆者の未熟さを痛感し「汗を流せば山に登れる」という基本のもとと、その重みを再確認した。

町田市、立川市の農業経営を研究

農業委員会会長職務代理・部会長

都農業会議は、10月に農業委員会会長職務代理・部会長研究集会を開きました。



町田市では植木の直売をしている横田さん（右）のほ場で現地研究をした

10月2日に区内・北多摩の農業委員会を対象に、町田市にて開き、約70人が参加しました。

10月12日には西多摩・南多摩の農業委員会を対象に、立

新規就農者の状況など研究

新規就農等農地見学会

都農業会議は、10月20日に瑞穂町、11月10日に青梅市で新規就農等農地見学会を開きました。

川市にて開き、約50人が参加しました。

研究集会では、最初に会場

市の農業施策等を研究し、町田市では井上健一氏・孝男氏、横田竜雄氏、立川市では（有）小林養樹園（小林公成会長）、吉澤一三氏、山木文人氏の農業経営を見学しました。

農業委員会の情報活動の推進に向けて

広報研究会開く

都農業会議は、このほど広報研究会を開き、農業



魅力ある雑誌の作り方について講演する上田氏

委員など約40人が参加しました。

研究会では（株）イカロス出版社の上田祥子氏が「農業専門マガジンの発刊まで」について講演をし、その後多摩市、武蔵野市、狛江市の農業委員・職員より「農業委員会だより」の取組が報告されました。

また、全国農業会議所より全国農業新聞の普及などについて説明がされました。



経営の状況を説明する瑞穂町の新規就農者の野元裕樹さん（右）

ホームページなどで新規就農希望者など参加者を募り、両日とも20人ほどが参加し、バスで新規就農者の畑を巡り、話しを聞きました。

新規就農者からは就農した経緯や現在の状況などが説明され、参加者からは「畑で直接新規就農者から話しの声は聞かれました」との声がありました。

常設審議委員会だより

第7回常設審議委員会

平成29年10月17日に丁A東京南新宿ビル会議室で開催し、状況は次のとおり。

議事

農地法の農業委員会会長諮問第4条1件299㎡および第5条1件6、158㎡を許可相当と答申する旨を決定した。

報告

①9月19日～10月16日の農業会議主要業務および今後の会議などの開催計画を説明した。②9月の農地転用許可状況を東京都が報告した。③平成29年度企業的農業経営および農業後継者顕彰事業の推薦状況と推薦農家の経営概要を報告した。

協議

①平成30年度東京都農業会議事業および予算の構想案として活動の重点事項と会費案を説明し、11月16日開催の第2回事業推進協議会に提出することとした。②当面の農政問題では、都市農地関連法の動きを説明した。

説明

東京都におけるGAP認証の取得支援と推進について、（公財）東京都農林水産振興財団の地産地消・オリンピック・パラリンピック関連事業推進課長の橋本良子氏が説明し、事業周知と活用をはかることとした。

第8回常設審議委員会

平成29年11月16日に中野サンプラザ会議室にて第2回事業推進協議会終了後開催し、状況は次のとおり。

協議

①第57回企業的農業経営顕彰と第37回農業後継者顕彰の候補者に東京都農業会議会長賞の交付を決定し、特に優秀な経営は東京都知事賞、全国農業会議所会長賞、東京都産業労働局長賞の候補として交付申請することも併せて決定した。

都農業経営者クラブが

オランダの農業事情を視察

東京都農業経営者クラブ（眞利子伊知郎会長）は、9月26日～10月2日に、オランダ農業事情視察を行い、7区市から20人が参加しました。約11時間のフライトを経て到着したアムステルダム空港からフリーウェイに入ると、牛や羊が草を食む平坦な牧草地と網目状の水路が延々と拡がります。オランダはライン川下流の低湿地帯にあり国土の4分の一が海面より低い干拓地です。北海道以上の広大さに参加者は驚きましたが、欧州でもオランダの国土面積は小さく、農業では高収益を上げる花きや野菜類の施設園芸が発展しています。また、国際貿易を重要経済政策に位置づけ、輸出



有機農業に取り組むセイネさん（中央）

する有機農業食品協会は世界でも珍しい、農業者、加工・販売業者、消費者を会員とする団体です。2030年にはEU諸国が全て有機農業に転換するようキャンペーン中で、スーパー等販売店では有機農畜産物が飛躍的に増えています。「価格が多少割高でも消費者は購入に積極的で成果は着実」とファンデ会長は話しました。

アムステルダムから南西へ1時間、スリフラーフェラントの有機野菜生産農家セイネさん家族は1940年頃から3畝で有機農業を行っていません。多品目の野菜は自営レストランと店舗、100名ほどのもぎとり会員用に販売し経営は安定しています。有機農産物の生産には作目の選択と労力の安定が必要とのことでした。

スキポール空港から車で20分ほどのアールスメール生花市場はサッカー場220面もの規模。2万種類の植物を扱っている、年間6千億円の売上げ。欧州各国やロシア等へ輸出、東アフリカや中東からの輸入が上位を占めています。大規模ながら競りから出荷まで効率的に行われていました。

施設園芸では、アルメーロバイテンのバラ生産農家を見学しました。気象災害の少ないオランダは温室の大規模化が可能で、電照によるロックウール周年栽培で年間10万本を生産し、アールスメール市場への出荷と直売で高収益を上げています。オランダは花を贈り物にする習慣があり、直売所には花束を求める人々が訪れていました。ロッテルダム近郊の大規模トマト生産経営は、6人の共同経営体で60種類を生産しています。ガラスハウスの高さは6メートル。コンピューター管理による雨水循環のロックウール栽培で、蜂による受粉と天敵を使った害虫防除など環境にやさしい栽培を徹底していま



参加者は生産された様々な種類のトマトの特徴を熱心に聞いていた

た。施設導入への国等からの補助は、省エネルギー対策や

全国農業担い手サミットが高知で開かれる

第20回全国農業担い手サミットinこうちが「集え！担い手 動き出せ未来へ」をテーマに10月24日～25日に高知県で開かれ、全国から2000人以上が参加しました。

平成29年度全国優良経営体表彰式では、八丈町の菊池紀元さんが販売革新部門で全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞しました。

その後、会場を移し平成29年度全国優良経営体表彰・農林水産大臣賞表彰式が行われました。歓迎イベント、皇太子殿下のおことばに続き、8経営体が表彰を受けました。2日目には、高知市内の花

環境に負荷を与えない栽培を行う経営に対する補助率が高いと聞き「オランダは環境保全政策に農業補助がある」（参加者）ことを認識しました。このほか、ロボット搾乳装置を導入し、高乳量を実現する酪農経営、13畝の施設で600万株の95%を輸出する大規模ラン経営、オランダ最大の屋内食品市場マルクトハルなどを見学し、7日間の日程を終えました。

き生産を見学しました。生産量全国1位のグロリオサの出荷や海外輸出について、生産量全国2位のユリ生産の担い手の確保・育成についての取組などの説明を受けました。



高知県産のグロリオサは世界に出荷されている

石川県で花きや野菜の栽培などを研究

島しょ農業振興検討会開く

島しょ農業委員会協議会（中山慶孝会長）は、11月14日～15日に石川県でふるさと東京むらづくり塾と共催で「島しょ農業振興検討会」を開きました。



エアリーフロアの栽培を見学した

県農林総合研究センターではエアリーフロア（フリージア）の開発とプロモーションを、北振興会長の圃場では栽培の様子を調査しました。また、JA金沢市及び金沢市農業センターでは、伝統野菜の栽培、販促、担い手育成について意見交換しました。

深谷市で先進的な取り組みや経営を現地研究

南多摩地区農委会協議会

南多摩地区農委会協議会（吉川庄衛会長 町田市）は、10月16日に埼玉県深谷市にて視察研修を開きました。



深谷市農委会の安藤会長（右）よりイチゴ農園の経営の取り組みを聞く

このほど武蔵村山市農業経営者クラブは、市内の親子を対象に地元野菜の収穫体験「みんなで新鮮野菜を収穫しよう！」を開きました。この活動は、収穫体験を通して畑の大切さと地産地消について知ってもらおうと開かれたもので同クラブ

収穫体験を通して市の農業をPR

武蔵村山市農業経営者クラブ

の木下和年会長の畑でカブ、コマツナなどの収穫を行いました。その後、市内の小学校の家庭科室で地元野菜を使用したすいとんづくりを行いました。

都内産の花や緑化植物を販売

都農業法人協会くらしフェスタに出展

都農業法人協会は、10月20日～21日に東京都消費者月間実行委員会主催のイベント「見て、聞いて、話そう！交流フェスタ」に出展しました。

イベントの販売コーナーで、東京都内産のミニシクラメンやパンジー、コニファーなどの緑化植物の苗約600ポットを販売しました。消費者は「都内産の新鮮さ、

全国農業体験農園協会（加藤義松理事長）は、11月6日に、農園利用者を対象とした長野県中野市の池田農園訪問ツアーを開き、35人が参加しました。

農業体験農園利用者を対象に

長野県池田農園訪問ツアー開く

池田農園では、園主の池田新一さんよりリンゴのおいしい食べ方などの説明を受けながら、もぎたてのリンゴやブドウ、柿などを試食し、参加者どうしの親睦を深めました。



参加者は様々な種類のリンゴを収穫した

収穫体験では、シナノスイートや群馬名月など様々な種類のリンゴを収穫しました。

深谷市では、農業の状況や施策、農委会活動の説明を受けた後、同市農委会の福島政治委員の大規模野菜経営と安藤己喜夫会長のイチゴ観光農園を現地研究しました。意見交換のなかで安藤会長は「農委会は農業者の意見を伝えていくことが大切」と話しました。



都内産の花きや緑化植物が売られた



市内産の様々な野菜の収穫体験をした

質の良さが見て伝わる。ペラングで花と緑を楽しみたい」と様々な色合いを組み合わせて購入していました。

12月～1月の日程

- 12・18 (月) 常設審議委員会
- 12・20 (水) 農委・推進研究
- 1・12 (金) 島しょ検討会
- 1・15 (月) 区内農委検討会
- 1・17 (水) 常設審議委員会
- 1・18 (木) 西農委検討会
- 1・22 (月) 南農委検討会
- 1・24 (水) 北北農委検討会
- 1・26 (金) 北南農委検討会
- 1・29 (月) 北西農委検討会